

平成 21 年 3 月 22 日

報告者：神戸地区 野口研治

第二回 地域委員会【神戸市】 活動報告書

—— ふうせんバレーボールを通じて ——

日 時：h.21.3.22 12:30~15:00

参加人数：15 名（地域委員 7 名）

場 所：神戸市民福祉交流センター体育館

今回は、地域委員会【神戸市】に登録された方々との交流・親睦を図るため、昨秋の大分大会公開競技で全国初登場したニュー障害者スポーツ（ふうせんバレーボール）の体験会、及び今後の地域委員会の進め方についてご意見を頂く機会にするため、第二回 地域委員会を開催いたしました。



ふうせんバレーボール上級審判員である古岡芳弘さんを講師として、地域委員 8 名とふうせんバレーボールチーム「神戸ヒローズ」の方々に参加していただき、実際にふうせんバレーボールを体験し、身体と心で障害者スポーツの楽しさ、面白さを感じることができるとても有意義な会になりました。

ふうせんバレーボールを体験するなかで、これほど皆が楽しめて、その上奥が深い競技だという事を強く感じました。一番感激したのが、チーム全員が 1 回はふうせんに触らなければならない、そのために全員が声を掛け合ってふうせんを回しあい、そのたびに皆さんから笑顔がこぼれ、お互いに名前を呼び合い歓声があがることです。障害者も健常者も同じチームの中で協力しながらふうせんを繋ぐところに、優しく温かい「人の輪」を感じました。

いざ試合をしてみると、関西大会で優勝している「神戸ヒローズ」のメンバーの抜群のチームワークに、地域委員やバレーボール経験者で構成するチームは歯がたちませんでした。単にふうせんを相手に返すだけではなく、ふんせんの打ち方に変化をつけて、ドライブサーブ、ドライブアタックを使うことで、ふうせんが不規則な動きをしながらコートに落ちるといふ、まさに「魔球」が飛び出す場面もみられ、ふうせんバレーボールの競技性の奥深さと面白さを感じました。

障害者スポーツ指導員として最も大切なことは、障害者の方々と一緒に思いっきり楽しむということだと思います。共に同じ時間を過ごし、障害と健常の垣根を越え、人と人との絆を大切にする。そんな心と心が温かくまた優しく繋がることのできるのがこの障害者スポーツではないでしょうか。これから私たち地域委員会はこの「心のつながり」を大切にして活動をしていきたいと思っています。

（文責：吉田 奈実子）